

準 備 書 面 (4)

東京地方裁判所

民事部 第 36 部合 B2 係 御中

平成 29 年 (行ウ) 題 511 号

平成 29 年 12 月 20 日

原告 三井環の妻 厚子

私は原告の妻、厚子です。平成 13 年の 2 月 13 日、午後 7 時から 10 時ころまでの間、連続して約 10 回位の無言電話が原告の自宅の固定電話にかかってくる。

私は、主人が帰宅したのでその旨告げると、「相手は分かっているから受話器を上げておけ」と言われ、相手がわかっているというのも不思議な思いがしたが、それが誰かとも聞かず、言われるままに翌朝まで電話機から受話器を外したままにした。

翌朝、私は NTT に電話をして無言電話がずっとかかってくる旨を伝えて、拒否する方法がないか尋ねた。ナンバーディスプレイ (相手の電話番号が表示される) の機能のついている機種にすると有料だけどかけた相手が表示されるなどの方法がある旨教えてくれ

た。

一方、主人は翌朝、兵庫県県警本部に電話をしていた。その内容は私には言わなかったので知らなかった。そして警察官が 2 人で尋ねてきて主人と応接室で話をしていた。しばらくは来られた警察官の馬場さんという方の名刺が応接の引き出しに入っていた記憶がある。

主人は普段から仕事のことは何も言わない人なので「事の説明」のないことについては何も思わなかったが、すぐに県警本部に通報したし、警官も二人で尋ねてきたので何かあったのかなと思った。

警察官は、「パトロールをしますから」と言って帰られた。近所の方も警官のパトロールが頻繁にある旨話していた。私は無言電話の話を近所の方とはしていない。

無言電話がかかったのはその 1 日だけであったし当時主人が渡真利と北野ダイヤハイツのことでいろいろ交渉していたことは詳しく聞かされてなかったので無言電話に関する私の記憶はこれくらいしか残ってない。

- ・ 無言電話が何度もあったこと
- ・ 無言電話の相手は分かっていると主人が言ったこと
- ・ ナンバーディスプレイということを知ったこと

- ・ 主人はすぐに県警本部に連絡を取ったこと
- ・ 警察はすぐに対応してくれ2人でやって来たこと
- ・ 応接の引き出しに警官の名刺が置いてあったこと
- ・ 警察官は「パトロールをします」と私に言って帰られたこと
- ・ 当時、近所の方が警察のパトロールが頻繁にある、と話していたこと

以上です